神潟田植塚 上

中村俊定文庫
文庫 18
176

訓閑田植塚 上

中村俊定文庫
文庫 18
176

田植塚
馬琴
享保年間

誹諧田植塚 軌

自序

東京帝国大学図書

中央図書館蔵

夫物は淡泊を本とし
まらくにして高理屈の古臭煙
も還て吳言怪語の罪と通れ
たる故もせぬ此風流の
氏道を遠入事を知る人

尾の月空居士の俳諧の夕涼窓
と詠い元月雨孤とくくと四季
八月は古式と西し風雅は西乃と
詠めるかの心さを表
捷徑なし新古今他の吳風を
さし詠ひいよくを遺風と仰を
ちり碑面の石碑の新かまの移く
芭蕉翁は之字碑彫除ことを栗津
ちり仏系を遺い阿武の書れ名とれの

し元を後表世れ記念と書筆と
ひ名れの俳達信夫の手向乃白く
墳苔のかされ寺ち明峰書碑のりの
寺新を一回苔紙魚孤墓とかを
事塔は信夫あ乃あ是一句孤
よし兎毛塔は施に中は里今棒
月ちり寺先四人塚と呼ひ作ねく
松のしかく称と国く孤達人松鴉
象潟の行庚里寺ち亭は云拾ま寺

朝日山法圓寺圖

遠を思ふ好士同つ事ん徳化学問へそ
教まきれ御後の弁えをなくらう
百年の人生は孫一帖とそうぬ

己亥夏

佐藤氏馬耳
於攬翠軒書

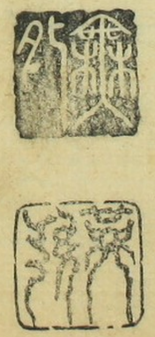
田植塚記

[illegible]伊[illegible]桑打[illegible]里朝日山
法[illegible]九田植塚[illegible]世[illegible]一と称奥羽
農耕搬[illegible]風流の[illegible]
奥羽四[illegible]人奇と事[illegible]ひし志[illegible]
と[illegible]中[illegible]埋[illegible]霊竜と祀[illegible]
於呼馬耳ふハ九頭乃むの[illegible]

風雅と好[illegible]中かく身合の味をし[illegible]
[illegible]く故翁の四風と[illegible]ひ今[illegible]流り
ふかく[illegible]を[illegible]僧俗と弦[illegible]
月[illegible]の奥[illegible]りとすゆ[illegible]の表に
物[illegible]一句[illegible]向[illegible]り跳[illegible]く潜
久し[illegible]事と[illegible]昌黎の廣[illegible]て
其功徳と作[illegible]ひ[illegible]
理俗の毎植の松と[illegible]
[illegible]

金鈴の原の碑を訪ひて後の
連歌を耳ろ信と猶く跡潟の邪海
小おろい殺もん今日碑と建る事
志を述べ書うしとかたく筆とれ申
事大概を記すものなり

享保四己亥五月十二日　雲水　無外坊燕説謹誌



追善奥行一人一句

風流の田うゑ拾へ雪の面　燕説
稔首しゐ高原ゆりの一族　乙角
紫燈の和ゆゞ塔へい月冴く　吉覽
穂ぬきの紙よ似せ新と咲　芝扇
糯ちゝぬ里やけぶし波多　衣吹
否と九鉢茅を解ら金ろう　風走

馬上うゝ小仮名書機嫌界　一水
やうゝと繼んと書ハ何風　櫻吟
嘉永仲冬懺悔のもとゝ書　厨角
破蕉ゝ書い日ゝ申の刻　徇肩
ちゝと梅聚嫌を燒ゝ作ゝ　梅人
こちゝて時ゝ八方ゝ賜　卜端
巴蛙ゝ出るゝと書ゝ月　素弦
鉄ゝ稱うけてゝゝゝ　渭流

南ゝ雪ゝ雪ゝうゝうゝ吹　素柳
蛙ゝ出ゝ藤ゝ黄菜　飛雲
一枝ゝふゝ世の老ゝ作ゝ沙　馬耳
毎ゝ川ゝ流ゝ同　沙平
出代の要ゝあとて白ゝ書ゝ　孤村
蛙ゝの書ゝ家有四　蝶翠
娘ゝ人ゝ作ゝ書ゝ蛙ゝ風　岐山
下ゝ元ゝ作ゝ書ゝうゝ何ゝ燒　槽角

勝を京のみやこい刈ぬ中
秋のゝ夜へお十夜の蕎
麦をうてをけいて豆腐い啖よれ　快庭
芝居のあよに遠格子　百　紅玉
隠れたるすきかりく萩の露　布川
松茸ゝの和歌　国命ち山　梅乗
鹿呼ぶ殿をいすゝ中と月夜　翠條
借りさ袴多裾多対丈　湖柳
七十

菜花を法ゝ丸のとゝ麦ゝ
川へさん坊と拾ふ明　青　奇云
梅ぶよかゝ板ゝ切ゝる　易斜
百ゝかをりて高ぬ八札　淇竹
荘厳の義をいつまも二ゝ鉛　海尺
姉ゝ日和を博ゝの雑集　東舟
　　不城

碑前手向

天を感じ　　院生　乙角

堂の前の碑の鉛の底ひより　　前主　素柳

七月十二日夕師と語り　明日山より
おのく供養といとるしたのく俳あり
合九しく風雅安楽の華と接まる

ちりくひまよれる苔茶毘漢を　　馬耳

墓を訪ひて　　湖柳
ちる涙ほんくる向むかふつちく　　東舟
あれ苔乃石を明ほしも　　保原　易耕
もいの心の百年をちん塚のうえ　　仝　奇云
萱草をくまん向れまよ照まとり　　仝　乙十
荘厳をけ杜冊を苔茶　　素弦
供塚と古屋ちらす月西　　園角
人ちれ向を白し赤木　　伯有
こ海のあ油持ちやあちる　　梅軍

異日や白浦すのうらの向ふ　飛雲
ゐるさやの鶏の孤村一つ　孤村
夕ぢの暮の暮を彼方此方　榊巴
鈴鹿や夕ぐれさまく鹿かなる　五正寺　坂風
遅桜乃朝日ゆるりゆるとなす　紅玉
蓮の葉もぬるぬるとなる　保原　可松
いりの世よみ風まくく暮れたあひ　岐山
夕ひ女を笠ぬくく行き塚乃夫　夾隈
一ぢのこの苗ぬるん田ん塚　櫻吟

涼しさや暮の青嵐ぬかさ香野　布川
青麩ぬ仲仕やまさ楽隠ぬる　一水
廻向しくりの面ぬ人乃ぬ弥尾　湛凡
あ絡さ一神しくぬ鬼の志河あ　白桃
自西ぬ沙伽と暗ぬ暮ぬ蝉　受月
長地とあんまやさぬ舘麟苔　中野　花柳
ぬ弁の姉や拾へすさ足　福嶋　靡風
道の絮ぬ糸を切ぬ向志　増田　湛弗
妹嫁くの毛向似合一茶冠苔　飯坂　海尺

汲たれ向ふ源しれの義
彼翁のなやむ事ありて今年行
芝のほとり楽湯とさまよひまるれ
ゑ切掛お弥陀仏何とかのみ事
奴をゑ新魂をゑ新うけ事向
紫れ雲坂よ猶くよかなつまと
ゑ月向ふまをゑ向ふまをゑ
施をれをけ事ゑ深や自杜丹
書をゑれ拂や法事れ休所

半田 好我
山形 魚学
瀬上 嘉峯
〃 義隣
〃 松岩
〃 等舟
白石 和石
掛田 答雫
如風

黄金れかをうゑ塚乃金銀華
柄香炉れ阜や奴ちの夕気通
うち水の墓ゑ事ありやゑ智ゑ
山迄ゑ盃物赤しゑ事ゑ山ちこ
ゑ塚の仏表ゑ鶏まゑ郭ゑ
固孫の苔やゑ石碑乃赤さうゑ
燈香ゑ法れ四角や白丁表
燈明ゑ消ゑ事くゑ事ゑ鶏ゑ
家なうゑ事向ふんゆれ一ゑ猶

蝶翠
快遊
城之
梅人
柳緑
緑水
柳葉
翠條
艸雫

河辺白し浪うち向の苔丸茶　浮白
あま雲かさね山や雨雅の志賀紅　波燕
みちのくの墓に侍る書屋の志　渭流
はるかに四方浄土や山ゐ桜　卜端
風なきく雲ゆ橘乃実　風走
くたう地村のゆ向やおの花　芝扇
線香ゆ白しるや蓮あみち　古覧
拂の志紅蓮風強や去ぬふを　仙蓮 指杏
みや定海ますは浪しるを　白英

ぬれ風と作く日ゆ河今多行　青雨
世と旅の河り明るし苔ゆ華　真流
来迎の西日移ゆやかなたを　辰晁
ひさまたく神ゆ早萬乃ゆ　露光
り乃ゆ思や書図ゆ一連　爲閑
末も苔を荘厳ゆ入梅の雲　且栖
早苗の風そゆ切を一たるみ　蒲帆
ちまれるや獅子座の白牡丹　勇徳
うちたまへ慕へ河ゆ　拾意

冬ごもりて蓮の花咲く頃

風薫る本下にたゝずむ僧

ゑ人の香や今もなつかしき　　福嶋　傾枝

みちゆくの風雅もしられぬ花　　主　友仙

魂ゝ碑ゆゝしく思ふ衣吹　　主　東湖

あはれ法師かなしき人よ　　主　下文

鉢緑ゆゝしく　　不城

春部

岩城　露沾子

神木や酒石拾ん志ゝ塚を

むし塚ゝ花ゝ咲ける彼岸哉　　尾州　吞水

うゝひゝ草あり吐ゝ草や秋の浦　　長崎　古道

梅木に伊勢ゝ博物殺　　桑折　東舟

梅ゝ香ゝ　　主　不城

梅ゝ香ゝ井ゝ　　尾州　仙角

接木し面白き服部桜や桃の事
書物を見ぬ人は枝葉の事
出代や去帆の帆かけ後夢
春のけぶりなるとぞ雲雀うゐ
猪公事とて下ぶ組んく畑の
丸さられぬ丸さ面くの蕪うゑ
蕪や海かす人と墨流日を
地ゆのしぶ茂黒枝機乃音
天人と吾妻とかりよ雛のそし

十二
月空 居士
筑前 鶴軒 一定
白川 四夕
〃 百拙
〃 洛員
〃 竹陰
尾州 朝尺
〃 三和
〃 露草

柳うゝ接ぎ切ちるる
打の音丸雲ぞ柳の蔭うゝ
湯宮や掛遠えさ丸ぞ眼鏡
お孫や植木の机の赤ぢし
ゐんかの二代也さかう亀
二番子丸弱疲ま丸雑乃蕪
いの内ぬり屋丸銀河と流さう
丸さ日や四十の孫ま丸祝うう
株越さや行子は猫の恋

福島 蘿風
仙台 拾意
〃 爲閑
〃 白英
伊勢小俣 以上
来折 湖柳
〃 芝扇
〃 蝶羣
〃 布川

折ふれる井や赤ゐし
山猫の毒盛人とおもしろう
草枕ゆゑ流しの夫婦の茂
明るの後すゝやかちんちん
ちゝ屋月梅のむ
湯豆腐白よ瓦丸弥ちんか
雪見酒天狗出さう長衣
勅宣丸宮ゑ来年や赤鄙縮
蔵の後世と非ゑてる自ひろう

増田 清竹
保原 乙十
京 哥笛
尾州 吾仲
〃 風尚
〃 和雪
谷地 誰也
本宮 鹽車
〃 盲亀

校ふ約る千架ふしたすし新の梅
さ面しぬ苔さゆ笑いて蔵の春
せよ動る四隅の智恵ハなうなる
山表ゆか日振ゑ風雑ゑゆ鄙
うけとに妖の新ゑ素摘ゑ
ゑとかる新の鼻ゑやいの丸月
姑村ゑ食情ゑ変ゑ笑しのある
降る丁四折ハ松ゑと帰ゆう
世の面しや源芳倒しの丸ゑ宮

保原 平風
〃 阿水
桑折 飛雲
〃 梅平
〃 卜端
白川 奚疑
〃 何一子
〃 可静
飯坂 可矣

之途川渡る小舟の料理の百
小さかし　紀氣督ふんさく　接燈北
加ゝ屋　北仕舞　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
懲免の　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

十四　桑折　主　徇斎
主　快挺
尾州　雲窓
主　涓流
白川　主　一戸
主　盟燈
保原　蘇之
桑折　主　風走
主　柳巴

紙ふくんで川のたゝみや猫の恋
黒鬼のようさいるむや花ゆゝ
きゝ柳の陰ゆゝんぬと八日ゆゝ
おいとしゝとゝ面白の柳ゆゝ
ゆゝ梅を竜の絮鄰よりゆゝ
姓名ゆゝきゝゝこつぼゝ蔭のゆゝ
雛達の除屋ゆゝ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
極祿千ゝ隠ゆゝ桃の赤

主　柳枝
主　柳葉
福嶋　下文
主　友仙
主　東湖
主　不中
木曽　還珠
川俣　和水
主　一川

伽藍と殘紅子孔雀の羽月
桃の日や胡蝶の指揮さるる
陽炎に有やうの入く城の
水こりと菜先とおくれる
まさ〳〵西に胡蝶の祝ひ
傘に京を捨し春の雪
吹雪に古き御所代哉

十五 江戸 露休
岩城 芳津
伊勢 慈說
〃 團室
尾州 推之
大津 正秀
馬耳

夏部

材木に買ひ〳〵桐の葉の繁
繁湯むの毒も尾を出す日照り
金さらや須磨を照く加茂
五月雨や時々鶯啼屋根の上
あひたりと菜の葉の蔭の一茶哉
青柳や別れ借ふ今年

月空 居士
尾州 吟水
〃 林月
筑前内野 助然
伊勢松阪 紫筍
武蔵 衣吹

孤樹しけやあふさり一見ん　妻折 素柳

ゐる足付鞠のゆらかとまれ　古覧

ゑ加賊畔の子祝く子ゆりのぬ　蝶羣

京のそや走里かけて竹ほ打　尾州 一秀

竹なきのそ掛る涼しき水輝　里蚪

白面や掛艫れし冬ま人　桃川

ゆきれく落る梅れあるは也　駿府沼津 虎林

姫百合子きや姫の艶くるを　英和

氏神とたのうね哉水鶏打　豊前長濱 方翠

城ぬる峠や夜りき山一つ重　保原 易耕

三曲がめ吟うきみ辰郎ム　奇云

神縦女中ぬのりし上戸実　白川 何一子

独の柄の猿く走れや麦鶴　百拙

蔓窓打出てく涼む月哉ちる　掛田 菅雫

澤ふ涼もるしや小菓屋の宗蔓　鎌田 吟花

冠より何れ裸のすそ一の卿　尾州 櫻閒

手柏子あき二階座敷のむとまれ　丹哥

夷船をゆきり出るまれ外くろ　暁井

一村の火伏りの桐の木
青よりも国角やく人のすもた
鼻へ出て太そうるれうれ蓼
味淡し杜丹ありなまく小盃
飛ふか雪見ん月とまれ
青柳や特ふうふく青海波
出掛りの一里くすりそえれ
持ふかく眠を柳下すえ
人並て猶も深うふ郷

廿七
来新 生 渭流
生 厨角
生 櫻吟
七人 不碩
岩七人 水音
本宮七人 萬角
保原 自牛
生 鬼角
増田 運中

和の赤や二日月を入かう
泥の破の舟の向さまれ蓼さ
蓼茶子に擦ちをふのうう亀
浮を咲かるえ様を出れ
赤ちかし社廊の屋
約束よ酔ふ紙ゆり
中地乃風源をさを行を桐の赤
木枕と割ふ清たちは牧ゆり
中の国一武の市を訓てやりふ

尾州 除酉
生 夾始
生 千里
磐城長沢 吟矣
福嶋 靡凡
生 吟鶴
来新 凧走
生 卜端
生 桐子

かつらの蓮の堀や氷結
るとて夜せきに向うくと堀り外
をみ瓦や砌いかとる蓮の凍
芦葦や外時風をを穂の風
をを射て杭を暑さ知らるを亀
白雪垢や垢を一しほなる木
鶴子の鳴るを鶴子かなたを
友の取を風物百明りの
多くれあるを更似せく凍の郷

田上

江戸 錬石
飯坂 延鐘
〃 不珍
尾州 風野
来折 一水
〃 梅雪
〃 波燕
〃 湛凡
〃 緑水

氣抜しさへ氷解
つくりさかの藁れたる氣
彼岸の藁を焚んこうれ華
雪れ光をみれの凍と所より
蕗て花者や日和乃三世相
清青やくれ走猿楽相より
れ菓屋や掾の下より杜乃
青梅の祖又と咲きん今多加
を遠とおしひを出をやくるる

保原 哥橋
福嶋 志中
〃 和石
〃 松雨
来折 乙角
〃 如風
〃 柳孫
〃 梅人
〃 不城

猿面村の翠八重なるくさ
揖斐とたのみて風の懸の松
潟子かく一潟見えあるれ
東路や何やあるまに松の籠
葉月や蓮花の伴吹山
男子子月鶴とるりて猿面
深淵丸厨子輝くばかりの松

十九 白川 四夕
須賀川 胥流
嵯 沾薄
左 右巴
左 昨非
左 沾梅
左 沾荷

蘐部

松山 穐慰子

蘐くれ初めて加賀を指す姫
秋寒し多賀咲さそふ旭の夢
如意志倒の孫庭やかて天山
八朝や壬生狂言の機業の義さうり
弱蕨の花五月雨言たく廷
先月や坊とすれば如何松

口戸 衰枚
大坂 野坡
伊勢 燕説
左 艸風
江戸 冥柳

名月や小池のすゝ孫次ゝ明石
うゝ稚ゝ子の梅しひ栃の栗
紅葉ゝ大ゝ和ゝ寺ゝ尾華ゝ
民ゝ婦ゝ夢ゝ清源殿の祭りくも
ゝり杉やゝ人ゝ丸ゝ
遠里夫婦ゝ月ゝ
ゝ月猿ゝ
ゝ月ゝ九ゝ遠ゝ鹿の
寿ゝ丸ゝ庵ゝ

備ノ龍野 紫く
尾州 斗曲
〃 兀山
〃 鬼洞
大津 才陀
〃 松琵
豊後ノ日田 野紅
〃 ゝん女
〃 朱拙

河原明一ゝ杉ゝ流川
ゝの栗ゝ孫ゝ里ゝ孫ゝ
弱ゝ月ゝ四ゝ
ゝ遠ゝ里ゝ
ゝ月ゝ亀
ゝ月ゝ
菊ゝ
鼻ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ
ゝ月ゝ

楽折 素弦
〃 蹴角
万年寺 坂風
筑前ノ嶋田 如舟
肥後小国 西東
伊勢ノ一ノ瀬 兩亭
〃 吟夕
駿河 海天
中野 花栅

木と一目や一緑一月や啄木鳥
くもりかゝりぬきかりひや松の葉繁
山里やいの栗の落板まとなり
蓼科の陽炎うれく新玉庵より
二月よ八ちうへまいりや若菜
立鶯と鳴うん式新こゝろもち
身に年波深板屋や鶯の
子の新と呼まとうし紫鶯沢
梅花鶯と金百へいやし早速

楽所 衣吹　　仙堂 旦栖
〃 古覽　　〃 勇徳
〃 卅平　　山形 幽定
増田 湛弁　　瀬上 等舟
尾州 調子　　〃 理石
〃 弓丁　　来所 交隣
〃 水明　　〃 櫻吟
江戸 芦人　　〃 徇所
筑前内野 こゝか　　伊勢小俣 石露

道者宿小屋九清やの日向屋
沢見と指くゝ帰せんとりくゝ
氏子の年ハ入や鹿の子
稲刈よたゝこゝ鳴うゝ
柴の赤鳴くゝ通りの梨
る麻之丈よりあや屋敷の長瓶
むれ鶴よ蕨の葉の痩うん
物起と鳴やうつゝ清水通
年猪の猿ゝやうの一ゝ人

そんほうれん山左衛門尉なる人
さとをもく（辞世）やのてゝ
名月や大菩薩の面明まゝ　水尺　二十二　美濃
人賞の　あ秋く一りと居るふ　保原さん人　桃里
はまゝく退く鳥集をひら男星　乙十　尾州
理上捨り蕎とゝ捨らるふの月　万声
山略く賞とは好みるゝを　心周　奈州
桐の葉ゝ落てゝん猫をら窓の月　白桃
谷川の上ゝうえぬ和風ゝ郷　布川　瀬上
美濃　葉三

秋ゝい人の一ゝ中かはく鶏ゝ京
遠ゝく余ゝ雨ゝく多ゝ物ゝへ紅
寝てゝ法ゝ月ゝ殺の月風
時ゝゝ山ゝ色い小庭ゝ梅畑
枝すゝゝ月の津ゝを小ゝ原
先陳ゝ徒（ダン）読さふゝ草元
星合ゝ山ゝん文ゝ多柳子
新文北女計男計ゝ星　儲
星合の赤ゝ歳世行　風

川俣　湯月
白川　指馬
白川　洛員
奈州　竹陰
奈州　槽角
岩城　岐山
岩城　昨非
岩城　樗声
岩城　嵐文

名月や表庭やまの拙し　椽

早今や高麗の里は月遠　岩城　由之

七夕や翁の家を借しけり　露沾子

狩くらすやさや柚の白し　江戸　孔雀

鶯若のくもとなるまでの一ふし　尾州　林子

うぐひすや竹の葉ちるかれ　同　素人

鶏鳴や聖くひよをとる孔雀　同　氷蟲

行のうけちらすとてわり菊　備中倉敷　蓑里

長崎　宇鹿

冬部

正月の歌の名残やかるた　江戸　桃鄭

高麗の春俳諧の婆婆子　尾州　十竹

うしむ日と高麗を添る雪孔雀　同　羽重

炉の煙ものやさしき房の合　伊勢一ノ瀬　梅凡

四海浪志ぐのおらが寝ぎ　大阪鴨立庵　朱人

高麗の春俳諧の婆婆子　来折　湖柵

冬枯や山茶花ばかり咲て
青々と紙帆たてし通り船
木葉殿をいとなむ雪の日を雪
氏橋や仲ふ一ちゝ雪
八郎ゑん海の蔵し穴
鴻一つ張書のまゝ村しられ
神雪や上戸の鼻ぬらす
發句や紅脂くゝし二葉草
一ちゝ里やりうち大根引

次賀川 胥流
大坂 芙雀
筑波 立柳
豊後宇佐 吾竹
保原 易耕
〃 奇云
〃 可松
江戸 瓢琴
〃 冥柳

手志下駄ちゝを磨くゝ物もなかり
去年もちて家起よりもゝ雪
ちゝ越を橋の神ふ陽ちゝれ
枇杷咲や村り指折ちゝ狂
かゝ衣ふ仏弟子帆と揚ふ亀
夏ま記の蹴ふかゝ山ちゝ
手鼻かゝ鼻ちゝ大根引
義を作ふちゝ寝て居ると俗ふり
八景ふ一鉢おゝくと鶏の雪

山形 康執
仙台 拾意
勢村松 茂枝
〃 小俣 大斗
〃 一瀬 浮翠
〃 二鶏
〃 拳石
飯坂 海尺
川又 慰言

寒菊を球の葉にして肥よりかるを枕にを味を知せし敏計　主　浅口

病中吟

梅ぬれを荊に軒くしるかな　須賀川　楠女
寒梅湯や梅の香や七つ起　駿州藤田　如翠
素の香や沉香を焼く屁もこうん　来折　素弦
夏ちかや垣根まかるる雪ゆきを　主　東舟
狐子ゐて故郷ゐるまれてちかな　主　快遊
湯ゆきやおやや浮世のうわ　主　琴條

風を多ひこんすやみの杜毋　主　柳枝
みちをかはるまよ勝の弦屋の邪　主　乙峰
物アを原しまはしやまを鶯　主　城之
勝の祖師と仰うん氏　主　受月
行くを世の根まくも枯野の　主　紅玉
惜雲ふくりりまさりや陣和　主　波燕
木枯や痩ふハ猫ハ原合時ら　主　孤村
枇ハの房繋ま瓜や梅乃かう　主　素柳
実ゆきをやまりの荒餅ヲせん敏計　主　飛雲

はるを待て猶ほ接ぎ木を試み佛
御雪ほ花の名所を尋ね
勝れる人面癖乃業ぞ思ひ
まさんまいぬるまゝと大根
孤子を入て家を押さん奥れ市
飯汁ほ朝比奈ふかな紀ほ
行末やまえん彼の孫とあ桑
雪に暮れ春を待つ結人の住り所
高燈の京と目下ほ孤子根葉

来新 白桃
〃 渭流
〃 柳巴
〃 芝扇
〃 馬耳
福島 傾枝
瀬上 嘉峯
〃 松岩
月空 居士

摂州 汪冲
〃 之由
〃 遊竹
〃 三父
〃 飄風
〃 風埃
〃 莞示
〃 立枝
〃 楚山

摂州や冬ふる梅の
御人の封しめやみ枝梅
かゝ春を雪城ヒ京佛
何てかゝ咲や小春の神古
法界ぞ春ぞ枝ぞ死ぞ
癒春や高丸自ひの石春の京
風春かゝ春ゝ根の蛇
御雪と白し消ゝ梅乃義
い消ゝの貴ぞ甲斐を春ぞ

[illegible]

尾州 椿又
仝 藤乃
仝 白雲
矢作津山 樗羅
江戸 琴風
伊勢桑名 杉長
尾州 可中
仝 風鳥
仝 夕思

[illegible]

仝 玉丈
仝 拓風
仝 杉月
仝 梅思
仝 推扣
仝 不又
仝 冬卜
伊賀上野 魚日
仝 其水

蛍にも飛雲の柱や初時雨　尾州　里翠

志ぐれや蕣咲のして大踊　仝　和泉

毬栗の叢薄を露分けて見る　仝　芦沢

雪の日のよきを使ひ浅沓　仝　志梛

此年の沸長閑や古みかみ　仝　甲由

娃ミ大や尼将軍の一思案　仝　岐峯

いちめんに遊ぶや引て附あ　伊勢桑名　仙呂

鮎の鮨しるも梅にこ参る　仝　楓里

志宴代来雨にあらう雲の華　尾州　素行

七ちらされる月出て涼し青仏　仝　松波

清明や郷も雨の中寒の梅　仝　林木

雛行の裸参りしてきれいなり　仝　初汲

三箇の庄お遊行して中や海の月　仝　氷支

此しるし借ひそやさの　伊賀上野　青瓢

子枯の冬あまりしや建　仝　沙蟹

花園の蓮に見世や鮓汁　尾州　梅之

替と言小町のうへやゆかし紀　仝　何樂

七ちらい八紀の世や山しれ　仝　波夕

このゝ庭や別荘の井手の玉
山吹花の咲くさまは
おいぬ道の草ゝ
水鶏ゝ宮雪ゝ
辻ゝ夜千鳥

尾州　之風
〃　隨九
〃　竹鳥
〃　水工
美作津山　逢柳